

「理系女性のエンパワーメントプログラム」が採択
文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」

「女性研究者支援モデル育成」は今年度から新たに設定されたプログラムで、優れた女性研究者がその能力を最大限発揮できるようにするため、女性研究者が研究と出産・育児等を両立し、環境整備や意識改革など研究活動を継続できる仕組みを構築するモデルとなる取組みを支援するという趣旨です。本学は農学と工学の2つの学問分野からなる理系大学であり、理系の女性研究者の活躍に対する取り組みが求められています。そこで、「理系女性のエンパワーメントプログラム」と題して提案を行いました。本プログラムへの応募件数は36件であり、その中から10件が採択され、本学以外では、北海道大学、東北大学、お茶の水女子大学、東京女子医科大学、日本女子大学、早稲田大学、京都大学、奈良女子大学、熊本大学からの提案が採択されています。

■ 計画構想の背景

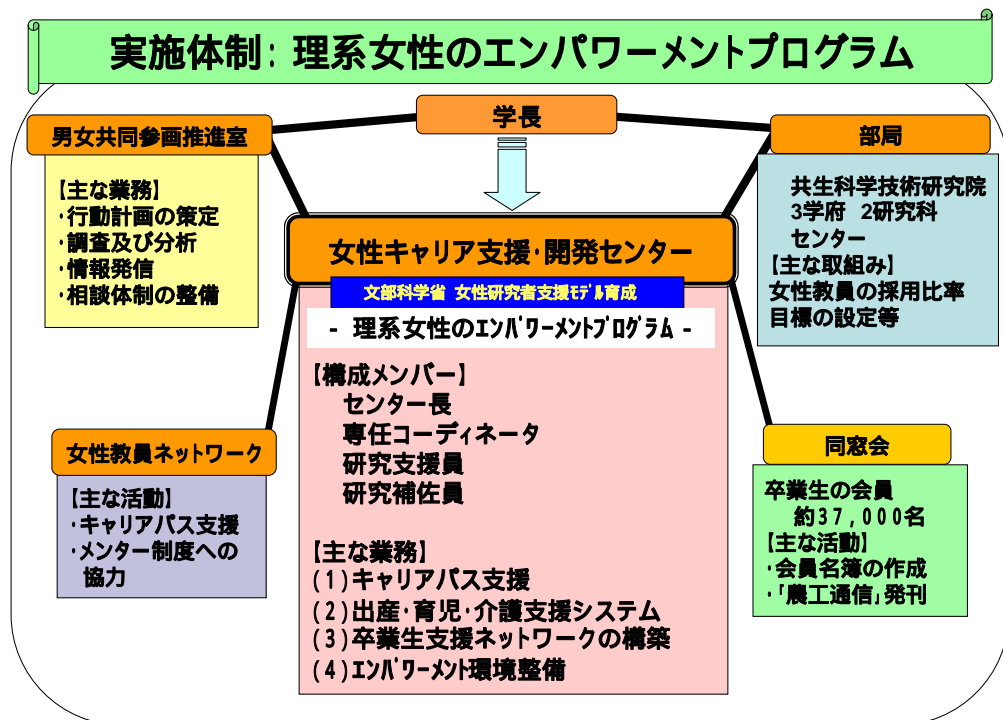
本学の学生は大学と大学院で研究者を目指した教育を受けますが、キャリアパスの支援を行なうことは研究者として活躍してゆくための重要な要素です。そして、社会に出て研究者として歩み始めるのですが、女性の場合はその過程で、出産や育児の壁にぶつかることがあります。また、介護の負担も大きいのしかかります。これらの時期にはワーク・アンド・ライフのバランスに配慮した支援が必須です。また、これらの時期に一旦研究者としての活動を休んでいた場合も、ブラッシュアップの再教育制度が整っていれば再び研究者として復帰することも可能となります。さらに、大学として、女性研究者の活動環境を整備して支援する体制も必要です。



■ 計画構想の概要

女性キャリア支援・開発センターを新設し、コーディネータや研究支援員などのスタッフを配置します。女子学生が女性研究者に育ち、若手女性研究者が出産・育児・介護に遮られずに継続的に研究することを可能とする全学的取り組みを行ない、女性教員の採用推進につながる支援活動を実施します。取り組み内容は以下の通りです。

- (1) 大学として目標値を明示した男女共同参画推進のポリシーと行動計画を策定
- (2) 女子学生や女性若手研究員をエンカレッジして研究者の道にチャレンジするキャリアガイダンスやメンター制度を整備
- (3) 出産・育児・介護に伴う負担軽減の提携事業を実施し、費用支援並びに研究支援員を配置して研究の継続を強力に支援
- (4) 卒業生ネットワークを構築して「母校に帰ろうキャンペーン」を実施し、研究生や社会人大学院生として学ぶ機会を拡げ、母校や他機関への雇用の機会を推進



■ 実施期間終了後における目標

実施期間の終了時の達成目標は以下の通りです。

男女共同参画社会に貢献する大学として、行動計画を決定して学内外に公示
3年後に修士課程大学院の女子大学院生の博士課程への進学率を20%へ向上
博士号取得女子大学院生のほぼ全員が研究者の道へ進み、博士研究員や任期付き助手の
経験後は、80%以上が他大学や公的研究所も含め、研究者の職位を取得
女性教員採用比率を3年後に20%へ向上させ、5年後に25%達成を目指す
女性卒業生の研究支援員や教員採用、大学院生や研究生として研究参加等、全学的な卒
業生参加型的女性研究者パワーを活性化し卒業生参加型の活動を推進
出産・育児・介護を原因とする女性研究者の「研究継続の断念」を全廃
女性研究者の活躍を推進する意識改革講演会などの取組みを強化・定常化